

『偉大なるしゅららぼん』

万城目 学／著 集英社（2011年）

琵琶湖畔の石走いしばしりに代々住み続けている日出家ひのでと棗家なつめ。いがみ合っている両家には受け継がれてきた特別な力があります。石走高校で日出家と棗家の跡取りたちが同じクラスになった時、力で力を洗う戦いがはじまります。

題名の「しゅららぼん」という不思議な言葉は、最後まで読むと謎が解明されるのでお楽しみに。

2014年に岡田将生、濱田岳、深田恭子など豪華キャストで映画化された作品です。

『西の魔女が死んだ』

梨木 香歩／著
小学館（1996年）



西の魔女が死んだ。そうママから聞かされたまいは、ママとともに魔女のもとに向う。魔女とは、まいの祖母のことだ。まいは道中で、以前学校に行けなくなったとき、しばらく魔女のもとで過ごしたことと、自分も魔女の修業をしたことを思い返していた。魔女は、まいにさまざまなことを教えてくれた。人が死んだらどうなるかということも…。

女の子の成長と、おばあちゃんと孫がともに過ごした日々が、みずみずしく描かれています。

『さよならを待つふたりのために』

ジョン・グリーン／作 金原 瑞人／訳
竹内 茜／訳 岩波書店（2013年）

16歳のヘイゼルは、肺にがんが転移し、日常生活に酸素ボンベが手放せない。週イチで10代のがん患者が集うサポートグループに参加しているが、ある日、骨肉腫こつにくしゅで片足を失ったオーガスタスと出会う。互いに惹かれあい、気の利いたジョークを言い合う姿は普通の16歳のようなのだが、2人には死の影がつきまとう。

2015年2月に邦題「きつと星のせいじゃない」で映画化。

『魔女の宅急便』

角野 栄子／作 福音館書店（2002年）

1989年にスタジオジブリで長編アニメーション映画となりました。みなさんも一度はご覧になったことがあるのではないのでしょうか。2014年には実写で映画化されています。長い間、親しまれている作品です。

10歳のときに魔女になると決めたキキは13歳の年の満月の夜にひとり立ちしなければなりません。キキは相棒の黒猫のジジとはじめての街で自立するために、宅急便屋さんをはじめました。



『リアル鬼ごっこ』

山田 悠介／著 文芸社（2001年）

西暦3000年、「馬鹿王様」によって、王国中の約5百万人の「佐藤」姓を持つ国民が抹殺されるという「リアル鬼ごっこ」計画が、ゲーム感覚で決まってしまう。主人公の佐藤翼は7日間のリアル鬼ごっこを恐怖と喪失感の中、逃げ切ったのだが…。本書は2001年に発売されてから、100万部を超えるヒット作に。映画は6本、テレビドラマ化もされています。2015年7月公開の6作目は、女子高生がターゲットとなる園監督版。

『ビブリア古書堂の事件手帖』

～栗子さんと奇妙な客人たち～

三上 延／著
アスキー・メディアワークス（2011年）

五浦大輔は、祖母の遺品である夏目漱石の「それから」が、価値があるものか確認してほしいと母に頼まれ、ビブリア古書堂を訪れます。そこで店主は入院中だと聞かされた大輔が病院を訪ねると、その店主は、古書店のイメージにそぐわない、若く美しい女性でした。接客業とは思えない人見知り、しかし本の知識は誰よりも深い店主の話を聞くうちに、大輔は祖母の遺品にまつわる意外なことが見えてくるようになります。

